1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500667
法人名	特定非営利活動法人 おもいやり介護の会 つくしんぼ
事業所名	グループホーム つくしんぼ
所在地 （電話番号）	津市片田志袋300番地の181 （電　話）059-237-5301

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 19 日（ 金 ）

【情報提供票より】（H20年7月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤 2人，非常勤 9人，常勤換算 5人	

（2）建物概要

建物構造	木造・瓦葺 造り
	2 階建ての 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	21,000 円		その他の経費（月額）	1,500 円
敷　金	有（ 円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無	有 ／ 無
食材料費	朝食	200 円	昼食	360 円
	夕食	440 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,100円			

（4）利用者の概要（ 7 月 1 日現在）

利用者人数		6 名	男性	0 名	女性 6 名
要介護1		名	要介護2		1 名
要介護3		1 名	要介護4		4 名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	87.4 歳	最低	79 歳	最高 95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	宮崎歯科医院 安濃中央クリニック その他利用者個人が以前からかかられている医療機関

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、団地内の一角にあり地域密着型サービスが支援出来る打って付けの環境にあり、民家を一部改造された建物で宅地内に入ると玄関前には一般家庭に見られる数多くの庭木があり、我が家に居る様な親しみと安心感が漂う。運営者は認知症高齢者と共に過ごす思いを「何の飾りもない、真のおもいやりの気持を大切に、喧嘩もする、叱られることもある、叱ることもある、泣くことも笑うこともある、生かされるより生きていく」をモットーに、又、地域で暮らす高齢者支援の発信地になることも目指している。運営者の後継者は法人の役員として介護福祉の仕事を持ちながら女子プロレスラーの顔も持ち元気で明るく利用者に親しまれ、職員も真のおもいやりを大切に何時も明るく笑顔で接しており、利用者の安心して生活している様子が印象に残る事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 運営推進会議を継続して開催することについては、開催頻度は少ないが継続して開催し貴重な意見が交わされ運営に反映される予定である。運営に関する家族等意見の反映については、家族会を開催し認知症の症状についての質問等が出され、事業所の説明で相互の信頼関係がより深まった。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 今回の自己評価は全職員がそれぞれ評価し、運営者と管理者で総括した。全員で自己評価をすることにより気付きが見出され、役職員の意識改革につながっている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 2月29日に第2回目の会議を開催し、事業所から現況報告・施設見学（中学生ボランティアの様子）・意見交換では①中学生ボランティアの見学で生徒は学校では普段見せない笑顔で接していた（教師の話）②事業所から積極的に自治会に参加していくとよいのではないか。（自治会長）③消防署主催の消防訓練に積極的に参加していくとよいのではないか。（自治会長）等意見が交わされ今後の運営に反映させる予定である。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7・8）** 懸案の家族会（第1回）を開催し、家族から認知症の症状等についての質問が出され、事業所の説明で理解され相互の信頼関係がより深まった。今後も家族会の開催を継続し家族の意見を運営に反映させていく予定である。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** ゴミ集積場の掃除に利用者は職員と一緒に参加している。敬老の日のお祝いに地区の老人会から赤飯を頂いたり、地区の盆踊りや中学校の運動会への参加、散歩の折近所のお家でおしゃべりしたり気軽に挨拶を交わすなど、地区の人々との交流を深めている。

2. 評価報告書

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、人としての尊厳を保ち住み慣れた地域で暮らし続けたいと願う人々に、介護福祉サービスを提供するという理念をつくりあげ、理念実現のために常に心がける事として『おもいやり』の標語を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りやミーティング時等、機会ある毎に話し合い共有している。又、理念実現のための「おもいやり」の標語を玄関や居間等に掲示し、常におもいやりの気持ちを持って理念に沿った雰囲気の中、明るく笑顔での支援を実践している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、ゴミ集積場の掃除に利用者は職員と一緒に参加している。敬老の日のお祝いに地区の老人会から赤飯を頂いたり、地区の盆踊りや中学校の運動会への参加、散歩の折近所の方たちと気軽に挨拶を交わすなど、地区の人々との交流を深めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者と管理者、全職員で取り組み、又、事業所独自でケアに対する点検評価にアンケート形式での学びを取り入れるなど、役職員共評価の意義は良く理解されている。前回の評価で、運営に関する家族等意見の反映の課題については、家族会を開催し改善に取り組まれた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年6月に運営推進会議を立ち上げ、20年2月に第2回目が（参加メンバーに利用者、利用者家族、市職員、自治会長、民生児童委員、ボランティア、中学校教師）開催され、事業所からの現状報告と中学生のボランティア活動や消防署主催の消防訓練への参加等、地域交流のあり方や運営上の意見交換が有意義に行われている。	○	参加メンバーへの気遣いや開催準備に苦労が多いと思われるが、堅苦しい会議と考えずに、今後も広くグループホームという事業所の理解と支援協力を得る機会となるよう、参加メンバーは少人数であっても定期的に継続して開催されることが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として解決できない事がある場合は、市の担当窓口に出向き相談し事業推進に活かすよう心がけている。行政への提出書類は直接市に出向き手渡すことで情報交換を行っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時のほか毎月の利用料請求の際、利用者個々の通信欄を設けて個々の事業所での生活の様子や健康状態をお知らせしている。事業所全体の生活の様子や行事等は毎月発行の『グループホームつくしんぼ』つうしんでお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	懸案の家族会（第1回）を実施し、家族から認知症の症状等についての質問等が出され事業所の説明で理解され相互の信頼関係がより深まった。又、運営推進会議の意見を今後の運営に反映させていく予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者との馴染みの関係を重視され、開設以来管理者、職員共離職者が殆んどなく利用者との馴染みの関係は良く出来ている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三重県グループホーム連絡協議会や県、市主催等の研修会に管理者以下職員に参加の機会を設け適宜参加している。研修を受けた者は内容を全職員に回覧し、内部研修の際の資料に使っている。各種資格取得についても自己啓発を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会や集い等に参加し交流を図っている。又、近くのグループホームとは相互訪問し交流を深めながら支援の質の向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	平成15年度から新規の入所者はないが、今後新規の利用の際は見学や体験利用により職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染んでもらってからの利用を勧めていく意向である。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何事も一緒に過ごし支えあうという事を基本にし、料理や手芸も一緒にするなど、何時もおしゃべりの場を設けながらみんなで楽しく昔話や若かった頃の話などさりげない話題づくりをしている。時にはお互いに叱られたり注意を受けたりすることがあるんですよと、職員から明るく笑顔で聞かされる事から、ともに過ごし支えあう様子がうかがえる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向については、職員のさり気ない声掛けにより把握することに努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人と家族から思いや希望等を詳細にお聞きし、主治医の意見を合わせてアセスメントシートにまとめたものを基に計画作成担当者が原案を作成し、全職員で検討のうえ作成している。作成した計画は家族に説明し話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回「業務日誌（個別ケアチェック票）」を基に、家族等の意見を聞き計画作成担当者が原案を作成し、全職員で検討のうえ作成している。体調等に変化が生じた場合はその都度適切な見直しが行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、かかりつけ医への受診や利用者のふるさと訪問等の多様な外出支援を行っている。特に8月にはつくしんぼの夏のイベントとして、津競艇場内のツッキードームで当法人が主催となり、後援に三重県・津市・三重県社会福祉協議会等により女子プロレスが挙行され、利用者も一般の人や障害を持つ人と一緒に観戦し感動された。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望に応じ、事業所の協力医と利用者の以前からのかかりつけ医とで受診が受けられるように支援している。受診には管理者が付き添い医師との連携を図っている。定期的には月１～2回の受診で健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては、本人や家族の希望があれば重度化や終末期も出来る限り対応する方針であり職員も共有しているが、本人の気持を大切にしつつ医療的な対応が必要な場合は、医療機関との連携を図りながらその都度家族と話し合い、入院も含め適切に対応出来るよう支援していく考えである。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室、トイレ、風呂等は民家を一部改造した造りのためプライバシーが保たれにくい状態にあるが、トイレの誘導もさり気なく耳元で伝える等、職員の気配りでプライバシーに十分配慮している様子がうかがえた。家族等の面会簿については1冊のノートに連記されている。	○	家族等の面会簿については、個別のシート等にするような工夫されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねの日課はあるが、利用者の体調に気を配りながら個々の希望やペースを大切にした起床時間、食事時間、入浴時間、外出等利用者ペースの生活となるよう心がけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は利用者と相談しながら決めるようにしている。調理、盛り付け、配膳、後片付け等利用者と職員が一緒におしゃべりしながら楽しく行われている。食事は職員も同じテーブルで同じものを四方山話をしながら行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に合わせ、出来る限り希望の時間帯に入浴（夏場はシャワー浴含）を楽しんでもらっている。利用者は全員女性ということもあり風呂から上がった後は、鏡やブラシを準備し整髪等自分でやってもらうことにより、鏡の中の自分を見つめる事を勧めるようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯（干す、たたむ）、食事の調理・配膳・後片付け、テーブル拭き、手指の消毒等出来ることを利用者が分担して行っている。楽しみや気晴らしでは法人が運営するデイサービスセンターや他のグループホームの利用者との交流、利用者の生まれた所や過ごした所を訪れるふるさと訪問等が楽しみごと、気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は自由に団地内を散歩することにより、、地域の方と挨拶を交わすことで、又、たまには隣のお家で話し込むなど、多くの方と顔馴染みとなっている。本人の希望で近くのお店へ買い物に行ったり、かかりつけ医への通院等の外出支援も行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関、居室共鍵はかけていない。職員は一人ひとりの行動を把握しており見守りは徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は防災マニュアルを作成し、避難等の手順を職員に説明しているが、訓練は5月に1回実施されたのみとなっていて実際に災害が発生した時の利用者の安全が確保出来るか不安である。	○	非常時（火災や地震等）に備え、利用者が昼夜を問わず安全に避難出来るように、独自の訓練に加え市の消防署や地域の方の協力を得て、避難路の確保と避難地の確認等を合わせた避難訓練を定期的に実施されることが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は米と魚、野菜中心のメニューで行っている。一人ひとりの食事量と水分の量については記録し、水分確保の飲物は何時でも自由に飲める状態になっている。栄養面については栄養士等の専門家にはチェックなりの指導は受けていない。同法人のデイサービスセンターの調理師に時々見てもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団地内の民家を一部改造された建物であり、宅地内に入ると玄関前には数多くの庭木があり、我が家に居る様な親しみと安心感が感じ取られる。共用空間は全て掃除が行き届き、台所は居間兼食堂と同じフロアーで食事の準備をしながらも利用者と話しをして見守も出来る。各所に季節の花が飾られるなど季節感を取り入れ、気持ち良く過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望があれば、家具や電気製品等何でも持ち込めるようになっていて、使い慣れた（箪笥、椅子、テーブル、テレビ等）持ち込みがあり、お気に入りの写真、趣味の作品、馴染みの飾り付け、二人部屋は家財等で間仕切りされ、寝具類は色彩や柄など好みの物を取り入れるなど、安心して居心地良く過ごせる場に工夫されている。		